



平成 19 年 10 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社 城南進学研究社
 代表者名 代表取締役社長 下 村 勝 己
 (J A S D A Q ・ コード 4 7 2 0)
 問合せ先 管理部長兼経営戦略室長
 杉 山 幸 広
 TEL 0 4 4 - 2 4 6 - 1 9 5 1

平成 20 年 3 月期 中間期及び通期の業績予想の修正について

平成 19 年 5 月 15 日付で発表いたしました平成 20 年 3 月期 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日) の中間期及び通期業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 連結業績予想の修正

(1) 当中間期 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	3,168	215	243	273
今回修正 (B)	3,041	164	297	250
増減額 (B - A)	△127	△51	54	△23
増減率	△4.0%	△23.6%	22.3%	△8.1%
前期 (平成 19 年 3 月中間期) 実績	3,674	374	439	△369

(2) 通期 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	5,870	45	112	142
今回修正 (B)	5,591	△135	61	13
増減額 (B - A)	△279	△180	△51	△129
増減率	△4.7%	-%	△45.0%	△90.7%
前期 (平成 19 年 3 月期) 実績	6,423	△261	△154	△881

2. 単体業績予想の修正

(1) 当中間期 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	3,168	217	256	286
今回修正 (B)	3,041	166	311	265
増減額 (B - A)	△127	△51	55	△21
増減率	△4.0%	△23.5%	21.5%	△7.3%
前期 (平成 19 年 3 月中間期) 実績	3,673	373	438	△407

(2) 通期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	5,870	49	128	158
今回修正 (B)	5,591	△132	77	29
増減額 (B－A)	△279	△181	△51	△129
増減率	△4.7%	－%	△39.8%	△81.6%
前期 (平成 19 年 3 月期) 実績	6,423	△263	△156	△920

3. 修正の理由

(当中間期)

売上高につきましては、一部の学年では計画を上回ったものの、個別指導事業を中心として年度途中の入学者及び夏期講習の募集状況が予算を下回ったことにより、当初の計画を下回る見込みであります。この原因は、推薦・AO入試の拡大を始めとする大学入試の競争緩和がさらに進行したことと、「ゆとり教育」是正に向けた高校側の補習強化によって、年度途中からの通塾ニーズが減退したことによるものと思われま

す。また、利益につきましても、販売費及び一般管理費及び校舎運営に係る経費の削減に努めてまいりましたが、売上高の減少を吸収しきれず、当初の計画を下回る見込みであります。

以上の結果、売上高につきましては 3,041 百万円、経常利益につきましては投資有価証券売却益が予想を上回ることから 297 百万円となる見込みであります。

当期純利益につきましては、更なる事業再編成と利益改善を推し進めるため、校舎再編成損失引当金を 78 百万円計上し、250 百万円となる見込みであります。

(通期)

通期の売上高につきましては、冬期講習、新規一般生の申込数の増加に努めてまいりますが、9月末レギュラー生の計画数の未達分が下期にも影響するため、当初の計画を下回る見込みであります。

また、経費につきましては、中間期同様、経費削減に努めてまいります。

以上の結果、売上高につきましては 5,591 百万円、経常利益につきましては 61 百万円、当期純利益につきましては 13 百万円へ、それぞれ減額修正となります。

以 上